

『輪中のくらし写真展』開催します！ 揖斐川第二出張所(3/17～ 4/18)[※]

～ 今だからこそ、学びたい。輪中に見る防災意識 ～

※ 土日祝祭日は、開庁日となります。

- 平成25年9月、IPCC第5次評価報告書第1次作業部会報告書が公表され、21世紀末までに、世界平均気温が0.3～4.8℃上昇、世界平均海面水位が0.26～0.82m上昇する可能性が高く、また、中緯度陸地などでは、極端な降水がより強く頻繁に降る可能性が高くなると報告がなされました。

かつて、揖斐川、杭瀬川をはじめ、この地域の河川はひとたび大雨が降れば暴れ川と化し、特に海拔3～4メートルの水郷地帯は洪水災害で苦しめられてきました。江戸時代以降、洪水対策として集落や耕地の周りを堤防で囲む「輪中」を築造。戦後、河川改修や土地改良が進むとともに次第に姿を消していきましたが、明治時代の初めには大垣市を中心とする西濃地方に大小約80もの輪中があったと言われています。そんな輪中先人たちが水害の多い低地でどう輪中を形成し、水と関わって生きてきたかを振り返るために、『輪中のくらし写真展』を当出張所館内で開催します。輪中堤の築造や宅地嵩上げ等による土地利用規制と一体となった家屋浸水対策は、防災から減災へと発想を転換した効果的な治水対策として、今、見直されてきています。

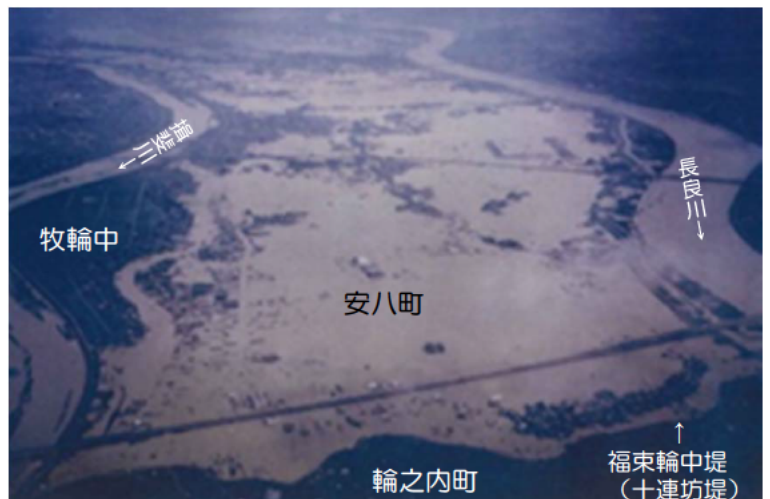


家屋の移転が必要となるなど完成までには多大な費用と期間が必要



輪中堤や宅地嵩上げを効率的に短期間で実施することにより、家屋の浸水被害を解消

輪中堤でくい止められた洪水氾濫
(安八郡安八町、安八郡輪之内町・昭和51年9月)



- 昭和51年9月、台風17号により、長良川の堤防が壊れ、安八町、墨俣町のほぼ全ての地域が水に浸かりました。
- その中で、輪之内町にある福束輪中や安八町内にある牧輪中は輪中堤が残されていたため、洪水をくい止めることができました。



※本企画は、大垣市輪中館ならびに輪中写真家河合孝氏のご協力により開催するものです。